



9月1日は「防災の日」

9月1日は「防災の日」、8月30日から9月5日は「防災週間」です！

防災の日は、甚大な被害をもたらした1959年9月26日の「伊勢湾台風」がきっかけとなり、災害に対する心構えなどを育成するために1960年に制定されました。

防災の日が9月1日となったのは、大正関東地震（関東大震災）が発生した日であることと、暦の上では二百十日（にひゃくとおか）に当たり、古来より台風襲来の時期とされてきたからです。

地震は「いつ・どこで」起こるか分かりません。防災の日、防災週間を機会に、今一度、防災や減災について考えてみてはいかがでしょうか。

※ 日ごろからの備えを再確認！



非常用持ち出し袋の準備

避難所での生活に必要なものを持ち出し袋に詰め、いつでもすぐに持ち出せるように準備しておきましょう。

水や食料の備蓄

最低3日分、できれば1週間分の備蓄が望ましいとされています！
「ローリングストック」という普段食べている食材を多めに買い置きし、賞味期限の古いものから消費し、食べたならその分を買い足すという方法もあります。

日頃からの地震への備え

家具の固定



非常用持ち出し袋の準備



水や食料の備蓄



避難場所や避難経路の確認



感震ブレーカーの設置



建物の耐震化



自らの命、大切な人の命を守るために
今から準備しておきましょう

監修：内閣府（防災担当）、気象庁

Yahoo!ニュース
オリジナル

家具の固定

地震の揺れで倒れそうな家具を固定しましょう。

家具の固定が難しい場合は、家具が倒れても、通路をふさがらないような配置にしたり、安全スペース（ものが落ちてこない・倒れてこない・移動しない空間）を作ったりしましょう。

避難場所や避難経路の確認

災害ごとに安全に避難できる避難経路を確認しておきましょう。

また、災害が発生した時の連絡手段や集合場所を事前に話し合っておくことも大切です。

感震ブレーカーの設置

感震ブレーカーを設置することで、地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧した時に発生する火災を防ぐことができます。

※ 地震が起こった際にどのような行動を取るべきかを考え、イメージ！

経験したことがないことや想定外のことに、とっさに適切な対応をとることは難しいです。しかし、日ごろから命を守るための行動をイメージしておくことで、地震が起こった際にすぐに行動できる可能性が高まります。